

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室
責任者 織田 正道

AI（人工知能）の著しい進歩

「電子カルテにオンプレミス型生成AIを活用」

理事長 織田 正道

AI（人工知能）の進化は、

ここ数年で加速度的に進んでいます。私たちは2018年にAIを活用して「退院直後の在宅医療支援（MBC:Medical Base Camp）利用患者」の分析を行い、大量のデータから複雑なパターンを学習するディープラーニングを応用して、MBC対象者の自動抽出を試みました。この試みはかなり高精度で有意義な結果を得ましたが、15、000人分の文字情報をすべて数値化する必要があるなど、日常的に使用するにはまだ多くの課題がありました。しかし、その後のAIの進歩は目覚ましく、2022年にChatGPTに代表される生成AIが登場すると、瞬く間に広まりました。私自身も初めて利用した際、人間と対話しているかのような滑らかな応答に驚き、その後は個人的に文章作成などで使用する機会が増えました。

ちょうどその頃、オプティム社からの提案を受け、電子カルテシステムを提供するシーエスアイ社と共同で、国内初の試みとなるオンプレミス型生成AIを活用したサマリー作成等の実証実験を開始することになりました。この取り組みは、医療現場における業務の効率化と、医療スタッフの書類作成等の負担軽減を目指しています。

電子カルテは、患者の診療情報をデジタルで管理するシステムで、これまでは手動での入力や整理が必要でしたが、それには多くの時間と労力がかかり、特に医師や看護師にとっては大きな負担となっていました。オンプレミス型生成AIの導入（図）により、カルテ内容を自動的に解析し、診療や看護サマリーを作成する機能が実現可能となりました。これにより、医師はカルテの内容を短時間で把握し、必要な情報を効

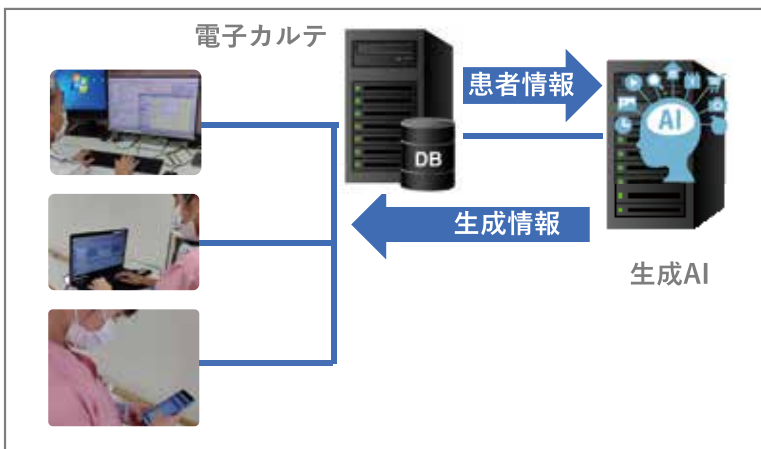
率的に活用できるようになります。また、AIが生成するサマリーは、患者の病歴や治療経過を一目で確認できるため、医療の質の向上にも寄与すると期待されています。

さらに、オンプレミス型AIを導入する理由の一つは、患者のプライバシー保護を徹底するためです。クラウド上にデータを保存する場合は、セキュリティ面での懸念がある一方で、オンプレミス型ではデータが病院内に留まるた

め、高いセキュリティを維持できます。これにより、患者情報の漏洩リスクを最小限に抑えつつ、AI技術の利便性を最大限に活用することが可能となります。

この試みは、今後の医療現場におけるAI活用の一歩となることを目指しており、他の医療機関でも応用できるように、実証実験の成果をできるだけ早い段階で報告したいと考えています。

オンプレミス型生成AIの活用



基幹型臨床研修病院認定

「初期研修、始めます！」

副院長 織田 良正

初期研修とは、医師免許を取得した後実施される2年間の研修プログラムの中で、全ての医師が専門診療科に進む前に様々な診療科での実務経験を積むことが求められます。

これまでも織田病院では、佐賀大学医学部附属病院の協力型研修病院として、初期研修医の先生方の地域医療研修や、たすきがけ研修を行ってきましたが、2025年度からついに基幹型研修病院として認可され、織田病院で2年間初期研修を行う研修医を迎える予定です。

基幹型研修を見据えて1年以上前から準備を進め、2024年3月に認可が下りた後、5月19日にマリノメッセ福岡で開催された初期研修病院の説明会「レジナビフェア」にも早速参加しました。織田病院のブースには九州全域から50名以上の医学部生に来ていただき、初めての参加にも関わらず大盛況でした。（佐賀県の病院で2番目に多い数だったそうです！）

今回、基幹型研修病院の認可を得るため、たくさんのスタッフが準備に当たってくれました。初めての経

験で分からないことも多かったのですが、皆で協力し合い前向きに進めていくことができました。特に企画経営室のメンバーの皆さんには本当に感謝しています。

織田病院の研修は、「地域医療最前線で、最先端の取り組みを、積極的に生かす」という当院の特色を活かした研修プログラムになっています。10月24日に初期研修の組み合わせ結果が発表されます。それまでにしっかりと織田病院の魅力をアピールしていきたいと思えます。



初期研修1年目をスタートして

研修医 後藤 真美

4月から織田病院で研修をしております。後藤真美と申します。研修が始まって早くも半年が経とうとしています。この間、内科を中心とした研修を受け、病棟で患者さんを担当したり、救急外来でのファースト

させていただきました。様々な病態や治療方法に触れる中で医療の奥深さを感じています。

私が織田病院での研修を希望した理由は、内科的な管理や手技を早期に学びたい、また地域医療に携わりたいという思いからです。私の希望を汲んで、柔軟にプログラムを組んでいただいていると感じております。

これまで多様な基礎疾患をお持ちの患者さんを担当し、たくさんの手技を経験させていただきました。また、先生方やコメディカルスタッフの方々にご指導いただき、患者さんはそれぞれ社会的な背景を抱えておられ医療だけでなく社会的サポートも重要であると実感しました。

まだまだ未熟な身ではありませんが、この貴重な経験を無駄にしないよう日々精進してまいります。

全日本病院協会主催 「医療DX人材育成プログラム」を修了して

公益社団法人 全日本病院協会主催の「2023年度 医療DX人材育成プログラム」を
当院の職員3名が受講いたしました。

このプログラムは「医療DX令和ビジョン2030」に対応すべく、医療DX推進に対応
できる医療機関の人材育成事業として、自院の状況に応じた院内の情報整備計画などを
ベンダーに依存せず自院で作成・実行できる人材を育成することを目的としています。

当院からは、事務、看護部、リハビリテーション科の様々な分野から受講されました。
ぜひ、今後の活躍を期待しています！



吉原 沙紀さん(3F病棟 主任看護師)

デジタル技術を活用することで業務のプロセスを効率化でき、業務の生産性向上に結び付く事を学びました。現在は看護部の意見を取りまとめながら当院のSEと協働し、生成AIを活用した看護業務の効率化を目指しています。今後もDXを取り入れながら、看護の質向上に結び付けていけたらと思っています。

森 純二さん(リハビリテーション科 PT)

生産人口が減る中においてDX化は不可欠であり、実現のためにはセキュリティ対策も非常に重要であることを学びました。

今後は、記録や書類作成時間の短縮、タイムリーな情報収集、動画を用いた患者様のリハビリなど、業務の効率化やリハビリの質の向上につなげていきたいと思っています。



山崎 銀次郎さん(医事課 事務)

講義を通じ、DXはAI問診やRPAなど身近な所で進みつつあり、苦手意識を持たずに難しく考えないことが大事であると感じました。今後事務として、例えば紙媒体の書類を少なくするなど、「日常業務の中でDX化できることはないか」という視点を常に持って取り組みたいと思います。



看護師特定行為修了者 第6期生の紹介



小池 有紀 3階病棟

病棟では患者の重症化・急変する場面も多く、看護師には的確な観察とアセスメントが求められます。特定行為研修で学んだ身体診察、臨床推論を用いてこれまで以上の深いアセスメント力を身につけ、適切な看護介入、診療の補助ができるように実践していきたいと思います。研修修了者を中心にスタッフで意見を出し合い、知識、技術を活用しながらチーム医療に貢献できればと思います。



坂井 友子 高島病院

看護師特定行為研修を修了して一番大きく感じたことは、今まで学んだ看護学に加え、研修では臨床推論など医師の視点を学ぶことができました。各分野の専門の先生方の講義を受けることができたことは大変貴重な体験になりました。

当院では、看護師特定行為監修修了者は私が初めてなので、特定行為がどのようなものか周知していくことも今後の課題だと思っています。



土井 裕太 高島病院 清涼荘

特定行為研修を受講する事に、当初は不安な気持ちが強くありましたが、家族の支えや応援、職場の理解があったからこそ乗り越える事が出来たと思います。研修では医学的根拠に基づいた臨床推論やフィジカルアセスメントを学ぶ事ができ、視野が広がったと実感しています。この学びを多職員とも共有し、職場全体の看護の質の向上に貢献できるように携わっていきたいと思います。

大地震に備える

防災運営委員会 中島 来

昨年7月の「BCP総合訓練」に引き続き、全部署参加の防災訓練を実施いたしました。この訓練は当初、1月に実施予定でしたが能登半島地震への災害派遣の関係で延期になり、やっと実施できたという感があります。訓練は、「南海トラフ地震や九州内陸部での地震発生が予測される今日、大規模な災害を想定した対応訓練を重ねることによってその備えとする」ということを訓練の目的とし、訓練目標は「各部署が、既に策定している地震対策マニュアル、地震対策アクションカード等の再確認をする」としました。

ZOOMでの開会式後、最初に、少人数での勤務体制時(06時46分)に地震が発生したという想定で「暫定防災活動隊」の動きを体験してもらいました。その後、平日昼間の職員が多数いる時間帯(08時30分)に震度6強の地震が発生したと想定し、「防災活動隊」としての各部署の活動を再確認してもらいました。総じて、それぞれの部署で熱心に取り組んでもらえていました。実際の災害時にはこれに多数傷病者対応が加わってくることが想定され、さらなる訓練の充実を図っていく必要があると考えます。



「佐賀大学医学部臨床教授就任のご挨拶」

副院長 織田 良正

2024年4月1日付けで佐賀大学医学部臨床教授に就任いたしました。佐賀大学総合診療部の山下前教授、多胡教授をはじめとした医局の皆様、そして、今まで織田病院を支えていただいた歴代の先生方からのサポートがあってこそと、深く感謝いたします。

臨床教授の選考基準の一番目には、「佐賀大学医学部の卒前・卒後教育に協力的であり熱意を有する者」と記されています。今年度もたくさんの医学生、研修医が織田病院での実習、研修を選択してくれています。臨床経験を重ねるにつれ、教育の大切さを日々感じています。地域医療の現場での臨床業務だけでなく、医学生や研修医の教育にも力を入れています。その取り組みが評価されたことは、これからの教育活動への大きな励みになります。

佐賀医科大学初代学長の古川哲二先生の語録集「医を学ぶ諸君」p142にはこのように記されています。「医の本質は“人間の生命の尊厳性を知る”ことである。診療は個々の病める人、病人を主とした医の実践であり、医学研究は医の本質を志向してその内容を科学的に創造し形成してゆくものである。そして医学教育はそれら両者を通じて医の本質と内容を医学生に知らせることである。」50年近く経った今も、古川先生のこの言葉は色褪せません。この言葉を胸に刻み、臨床教授として、医学生や若手医師に対して、臨床、教育、研究、いずれもバランスよく、総合的な支援と指導を行います。

これからも、佐賀大学医学部の医療教育・研究機関としてのさらなる発展に貢献することができるよう日々精進いたします。どうぞ今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



Exchange Program in SAGA 2024 (for JABSOM students)

佐賀大学とハワイ大学の国際交流事業「Exchange Program in SAGA 2024 (for JABSOM Students)」が7月1日～13日に行われました。当院は2001年よりこのプログラムに参加しており、今年も7月9日にハワイ大学医学部2年生4名をお迎えしました。

織田副院長の当院概要説明をスタートに、医療DXや地域連携を中心とした院内の説明は、当院スタッフが全て英語で対応しました。その後、ゆうあいビレッジで介護施設を見学、午後からは、ゆかたに着替えてお茶室での茶道体験や祐徳稲荷神社参拝など日本文化に触れてもらいました。日本の医療を理解するために、日本の文化や生活を知ることがとても重要です。また、当院スタッフにとっても、ハワイ大学留学生との交流が良い刺激になっています。今後も充実した実習となるように皆で努力したいと思います。

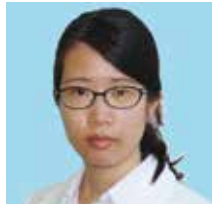


新任医師を紹介します



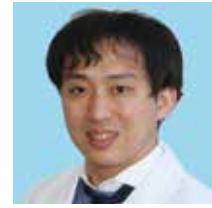
中島 央律 紗
内科

中高は弘学館中学・高等学校、佐賀大学出身です。国家試験を終えて5年目という時間の経過に驚愕しています。学生・研修医の頃も研修で、入局1年目に約半年外来勤務で、そして令和6年の6月からまたお世話になる事となりました。5月までは嬉野医療センターで呼吸器内科の先生方と共に仕事をさせていただき種々の呼吸器疾患に出会い、COVID19にも悩まされておりました。至らない点多々ありますが、何卒宜しくお願い致します。



新藤 優里
消化器外科

本年度から織田病院勤務となりました消化器外科の新藤優里と申します。出身は佐賀大学で、去年までは好生館で勤務しておりました。不慣れな点もありますが、精一杯頑張っていくしますので、よろしくお願い致します。



案浦 峻
総合診療科

はじめまして。今年度より総合診療科にお世話になっております案浦峻です。出身は福岡県福岡市で、泰星高等学校(現上智福岡高校)、金沢医科大学を卒業後、南砺市民病院→佐賀大学医学部付属病院 総合診療部を経て今年度から織田病院 総合診療科に赴任しました。元気良く、謙虚に患者様と向き合えるよう精進いたします。どうぞ宜しくお願いいたします。

2024年4月から医師、研修医を迎えました。



古屋 陽子
内科

今年度より勤務させていただくことになりました。長崎大学を卒業後、長崎大学消化器内科に入局し、長崎大学病院、大分県立病院、長崎労災病院、さくら病院などで勤務して参りました。佐賀県での勤務は初めてですが、地域医療に少しでも貢献できるよう、努力したいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



大谷 剛史
消化器内科

4月より赴任いたしました、消化器内科の大谷剛史と申します。佐賀大学を卒業し、佐賀県医療センターにて初期研修後、唐津地区にて消化器内科として勤務を行っておりました。消化器内科として、鹿島地区の医療に少しでもお役に立てるよう精進して参ります。よろしくお願い致します。



松尾 絹子
総合診療科

4月より赴任しました、総合診療科の松尾絹子と申します。佐賀大学を卒業後、唐津市を中心とした佐賀県各地でプライマリ・ケア(地域医療)を行ってきました。総合診療科として地域の健康や生活を守るお手伝いができれば幸いです。何でもご相談ください。よろしくお願い致します。



後藤 真美
研修医

出身:佐賀大学

研修医1年目の後藤真美です。医師としても織田病院のスタッフとしても不慣れな点があり、スタッフの皆様に多々ご迷惑をお掛けするかとありますがよろしくお願い致します。また、業務や手技に関してお尋ねしたり、お力をお借りしたりことがあると思えますので、その際はよろしくお願い致します。

合格おめでとう(令和6年3月~4月)

氏名	部署名	資格(試験)名称	資格取得(合格)日	氏名	部署名	資格(試験)名称	資格取得(合格)日
柿原 佐知子	(小規模サテライト)	介護支援専門員	令和6年3月13日	山口 仁	(デイケア)	レクリエーションインストラクター	令和6年3月3日
小濱 希望	(小規模サテライト)	介護福祉士 (北後高校在学時に試験合格)	令和6年4月5日	松田 陽向	(3階病棟)	看護師	令和6年3月27日
増山 美波	(1階療養棟)	介護福祉士	令和6年4月5日	辻 妃乃	(3階病棟)	准看護師	令和6年3月18日
満岡 咲妃	(小規模サテライト)	介護福祉士	令和6年4月5日	中村 典弘	(事務管理部)	施設基準管理士	令和6年4月1日
カクレルソニシヤ	(特定施設)	介護福祉士	令和6年5月8日				

新入職員を紹介します



山崎 彩也香
4階病棟
(看護師)

先輩たちのように患者さん一人一人に寄り添った看護をできるように頑張ります！



中橋 愛奈
3階病棟
(看護師)

まだまだ未熟な部分も多いですが、精一杯頑張りますのでよろしくお祈りします！



宮原 彩苗
3階病棟
(看護師)

まだまだ未熟ではありませんが、諸先輩方のような素敵な看護師になれるよう精一杯頑張ります。よろしくお祈りいたします。



溝上 莉花
3階病棟
(看護師)

実際に働いてみて、凄く大変で責任のある仕事だけど、患者さんが少しずつ元気になっていく姿みて、とてもやりがいがあるなと思いました。



平方 結心
4階病棟
(准看護師)

患者様にとってより良い看護が提供ができるよう、一日一日学びを深め、知識・技術を身につけていきたいです。



田中 愛理
3階病棟
(看護学生)

私は患者さんに寄り添う事の出来る看護師になる事が目標です。患者さんの表情やしぐさから、何を求めているのかを感じ取る力を身に付けたいです。そのためにも今私にできること、「笑顔、挨拶、思いやり」という事から、一歩ずつ進んでいきたいと思えます。看護学校と仕事の両立を頑張ります。



江口 ひなの
健康管理センター
(保健師)

目指していた保健師にやっとなれました。対象者の健康をサポートし、背中を押せる保健師になりたいです。今後、保健指導や健康教育をしていくのが楽しみです。



久保 美咲
リハビリテーション科
(言語聴覚士)

入職して数ヶ月が経とうとしています。毎日分らないことばかりで、優しい先輩方に助けられながら過ごしています。患者様一人ひとりに合わせたリハビリができるよう励んで参ります。これからもご指導の程よろしくお祈りいたします。



吉村 義誠
リハビリテーション科
(言語聴覚士)

入職してから数ヶ月ほど経ちましたが、まだご迷惑をおかけすることの方が多いかと思えます。少しでも患者様のために貢献できるように毎日精一杯励んで参りたいと思えます。



山下 栞
リハビリテーション科
(理学療法士)

患者様や他職種の方々とも連携する大切さを感じました。また、自分の未熟さを改めて感じたのでこれから先輩方にもアドバイスを頂きながら経験を身につけていきたいと思えます。



内海 あかり
リハビリテーション科
(理学療法士)

関わる方皆さんやさしく声をかけてくださり、とても働きやすい環境だと日々考えています。分からないこと、不安なことがあれば先輩方に助けていただきながら毎日頑張っています。これからは気を引き締め頑張ります。



田中 愛深
リハビリテーション科
(理学療法士)

スタッフ、患者様みなさん優しく話しやすいのでモチベーションいっぱい頑張ることができています！これからも学びを続け、患者様のより良い生活をサポートしていき、日本一の病院作りにも貢献して行きたいです！



古澤 凌佳
診療支援部検査科
(臨床検査技師)

検査機器や検体の取り扱い方、患者様との接し方など日々学ぶことが多いですが、とても楽しいです。早く一人前の検査技師になれるよう、頑張ります。



川口 りりか
医事課
(事務)

先輩方のように患者様に寄り添い不安を和らげられる人材になれるよう頑張ります！



乙成 泉希
栄養食事サービス部
(管理栄養士)

入社して数ヶ月が経ち、仕事に慣れてきました。まだまだ未熟な面もありますが、患者様を少しでもサポートできるようにこれからも頑張ります。



森重 美莉
栄養食事サービス部
(管理栄養士)

栄養指導する度に勉強不足だと痛感することがたくさんありますが、たくさん勉強してもっと知識がある管理栄養士になりたいです！



小濱 希望
小規模サテライト
(介護福祉士)

とても明るく毎日楽しいです！今後は利用者様の身体の変化に気づけるようになりたいです。



ODA フットサル部紹介



ODAフットサル部は、スタッフの健康維持・増進、他職種や他施設との交流を楽しむことを目的とした、活気あふれるクラブです。初心者から経験者まで、男女問わず、誰でも大歓迎です。現在は部員30名程で男女の割合はほぼ同じ、コート内で一緒に汗を流し、楽しい時間を過ごしています！鹿島市民体育館を活動拠点とし、毎週木曜日19時30分～21時30分で活動しています。

近隣施設との練習試合や、年に数回ある県内医療関連施設との大会(ホスピタルカップ)にも参加しています。他施設との試合では、フットサルを楽しみながらスタッフ同士の交流を深めています。ODAフットサル部は、新しいメンバーを募集しています。運動が好きな方、フットサルに興味がある方、プレーヤー・サポーター問わず大歓迎です。今後の活動にもご注目ください！！参加を心よりお待ちしております！



Instagram 開設しました

地域医療の先進的な取り組み、病院内の日々の出来事や健康に関する話題など発信していきます。ぜひフォローをお願いします。



リハビリテーション科



ODA_HOSPITAL



Facebook、公式LINEも
よろしくお願いします。



今年3月には「健康優良法人2024（大規模法人部門）」の認定を受けました。
この暑さ厳しい夏を乗り切り、今年も1年を通じて皆が健康にごせますように！

盛夏の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。
今年の夏も暑さ厳しい日々が続いています。私はこの暑さの中、エアコンの効いた部屋で過ごすことが増えたため運動不足になってしまいました。これではいけないと思い、最近ではウォーキングや筋トレを始め、体脂肪率がかなり落ち、身体も一回り大きくなりました。また、自分で料理も作るようになり、熱中症や夏バテにならないように体調維持に努めています。病院では2021年から「職員とその家族が健やかで充実した生活を送れる職場づくり」に取り組んでおり、健康意識も高まっています。

編集後記

医事課 杉光七輝